

第4節 医療安全管理業務

1 組織体制の確立

患者・医療従事者の安全確保等を目的として、医療安全に関する全般的事項を審議する医療安全管理委員会を設置している。また医療安全推進に向けて実践的に活動する医療安全推進担当者会、各部門の医療安全専門小委員会、有事の医療安全管理体制を担う医療事故対策委員会を設置し、医療事故防止に向けた組織体制を整備している。

医療安全管理室は、医療安全管理室長、専従セーフティーマネージャーを配置し、医療安全管理の中心的役割を担う。各部門と連携し医療安全の推進に努めている。

2 マニュアルの整備

緊急事態発生時対応マニュアル、救急カート管理マニュアルを改訂した。緊急事態が発生したときの応援体制、職種別の役割、また平成28年度新館棟開設による救急カート、AED設置場所の変更等を改訂した。

3 患者相談窓口の設置

患者相談窓口を設置して、医療福祉相談や看護相談、医療相談に対応する。

医療福祉相談は、医療社会福祉士が社会福祉や社会保障制度に関する各種相談、医療費、転院などに対応する。看護相談は、看護師が主に退院後の在宅介護について対応する。また医療相談は、セーフティーマネージャーが医療に関する提案や相談について対応する。

4 安全への取り組み

(1) 医療安全管理委員会

委員会は副病院長、各診療部（科）長、各部（科）長、事務局長、その他院長が選任する者、25名をもって構成する。

定例会を毎月最終木曜日に設定し、12回開催した。主な検討内容は、以下のとおりである。

- ア 医薬品安全管理報告
- イ 医療機器安全管理報告
- イ 研修会の企画・結果報告
- ウ 医療安全ラウンド報告
- エ 医療安全推進月間事業結果報告
- オ 緊急事態発生時の対応・コードブルー発令方法の変更について
- カ 救急カート管理マニュアルの改正
- キ 医療安全情報の周知
- ク インシデント事象報告と対応策の決定
- ケ 各部門の活動報告
- コ その他

(2) 医療安全推進担当者会

医療安全推進担当者会は、定例会を毎月第三火曜日に設定し、12回開催した。主な検討内容は、以下のとおりである。

ア 医療安全管理研修会の企画・運営・評価（表 1）

講演会 2 回を企画開催した。一部の講演会・研修会に関しては、地域医療機関へ公開とした。

イ 医療安全推進月間事業

医療安全推進月間ポスターの掲示や、全職員の名札に医療安全の緑色リボンシールを貼付し啓蒙活動を実施した。また、患者参加の医療安全を推進するため患者さんへメッセージかるた」つくりに取り組み、職員から標語を募集した。外来部門に掲示し投票にて選出した標語でかるたを作成する。29 年度は 5 作品が選出された。

ウ 医療安全ラウンド

エ 医療安全に関する情報の周知徹底

オ 医療安全通知の配布

カ インシデント事象報告

キ その他

表 1 医療安全管理研修会

開催日	内容	対象者	参加人数
5 月 16 日	講演会 テーマ 「医療事故調査制度～制度開始 1 年半・院内調査の具体的手順・考え方～」 講 師： 一般社団法人 日本医療安全調査機構 常務理事 木村 壮介 氏 ※ビデオ研修 9 回実施	全職員 地域 公開	607 名
12 月 11 日	講演会 テーマ 「患者家族とのコミュニケーション」 講 師： SOMPO リスクアマネジメント 大賀 祐典 氏 ※ ビデオ研修 5 回実施	全職員	534 名

（3）医療安全管理専門小委員会

各部門又は委員会が指定する特定の課題ごとに、専門小委員会を設置している。各部門等におけるインシデントの原因分析・予防策・改善策の検討や職員に対するインシデントレポートの積極的な提出の励行、並びに作成の指導等、医療安全の推進に関する業務を行っている。

（4）医療安全カンファレンス

医療安全管理室長、検査技術部長、放射線技術部副部長、薬剤部長、臨床工学部長、看護副部長、業務部長、医療安全推進担当者会委員長、システム保守担当、セーフティーマネージャー、以上 9 名で構成する。

医療安全カンファレンスは毎週木曜日に定例会を設定し、31 回開催した。提出されたインシデントレポート及び口頭報告から警鐘事例を抽出し対応策の検討を行った。

また、新聞報道や他施設の事故事例等について院内の状況確認及び情報共有を行った。

検討、改善した内容は以下のとおりである。

- ・禁忌薬の誤投与防止対策
- ・患者誤認防止対策（外来診察時、放射線治療、検体検査、書類）
- ・誤薬防止対策（過剰投与、過少投与、無投薬）
- ・セントラルモニターの患者登録の規定
- ・同意書の管理
- ・透析に関連した事故防止対策
- ・転倒・転落対策
- ・後発薬対策
- ・喫煙対策

表2 インシデント・アクシデントの事象内訳と件数

事 象	合計件数	インシデント	アクシデント
処方・与薬	998	870	128
ドレーンチューブ類の使用・管理	472	235	237
転倒・転落	161	45	116
検 査	305	267	38
療養の世話	118	75	43
治療・処置	80	52	28
食 事	86	83	3
手 術	45	36	9
そ の 他	182	168	14
計	2,447	1,831	616

表3 インシデント・アクシデントの職種別報告状況

職 種	合計件数	インシデント	アクシデント
看護師	2208	1621	587
医師	18	13	5
薬剤師	60	58	2
栄養士	62	62	0
放射線技師	28	23	5
検査技師	33	32	1
その他	38	22	16
計	2,447	1,831	616

表4 インシデント・アクシデントの時間帯別の発生状況

時間帯	合計件数	インシデント	アクシデント
0～ 1時台	70	32	38
2～ 3時台	67	33	34
4～ 5時台	45	22	23
6～ 7時台	158	112	46
8～ 9時台	371	296	75
10～11時台	404	327	77
12～13時台	325	257	68
14～15時台	250	188	62
16～17時台	320	252	68
18～19時台	210	161	49
20～21時台	116	85	31
22～23時台	89	47	42
不明	22	19	3
合計	2,447	1,831	616

第5節 地域医療連携室業務

地域医療連携室は、近隣医療機関、開業医、訪問看護ステーション、福祉サービス機関等との連携を図るとともに、医療相談、看護相談、医療福祉相談、退院調整業務、情報発信等の業務を行っている。他院からの診療情報に関する照会及び相談の対応、紹介元医療機関への初回受診報告及び転帰報告、県民に対する適切な診療科の受診案内、地域医療機関との連携会議などを通じて、高度専門医療を提供するための環境の充実を図っている。

平成29年度の職員構成は、医師1名（兼務）、主幹3名（兼務2名）、MSW4名（常勤2名・非常勤2名）、看護師7名（常勤）、事務3名で（常勤1名・臨時職員2名）であった。また、退院支援担当（病棟に専任職員を配置）、患者サポート担当（病診連携・患者サポート・看護相談）の業務分担をし、円滑な対応に努めた。

病診連携としては、地域の病院と患者の診療においてスムーズに連携が図れるように努め、医師と事務員が30医療機関訪問（病院11件、クリニック19件）を実施、事務員のみが63医療機関訪問（病院31件、クリニック32件）を実施し地域連携の強化を図った。

患者サポート担当は、患者・家族が安心して入院中の療養生活を送ることができるようにMSWによる医療福祉相談や看護師による看護相談を実施した。

退院支援担当は、入院初期から患者の入院前の生活状況を把握し、退院後の生活を患者・家族の思いに寄り添いながら、多職種と連携・協働し退院支援機能を充実させた。また、後方連携が円滑にいくように60施設（病院24件、訪問看護ステーション12件、施設22件その他2施設）への訪問を行った。

新しい企画として、年1回開催していた「いきいき健康塾」を「出張いきいき健康塾」とリニューアルし、近隣市町村の会場に出向き、地域住民が参加しやすいような取組を開始した。

1. 地域医療連携室における対応件数

1) 病診連携（表1）

平成29年度の対応件数は3,438件であった。その中で、診療情報提供・照会が1,695件（約49%）で最も多かった。緊急受診による診療情報提供依頼や転院相談の問い合わせが増加しており、地域医療連携室間で連携を取りながら行った。

表1 地域医療連携室対応件数

内 容	平成29年度（実数）
診療情報提供・照会	1,695
受診・医療相談	822
経済的問題	100
社会的問題	203
心理的問題	29
セカンドオピニオンの相談	58
その他	531
合 計	3,438

2) 医療福祉相談（表1）

相談で多かったのは、患者・家族からの受診・医療相談や、医療機関からの循環器や呼吸器疾患の専門的な治療に関連した相談が多く、関連部署、各科医師と連携を取って対応した。

経済的・社会的問題については、「無保険である」「低所得である」「高齢世帯・単身世帯のため在宅介護が受けられない」などの問題が多かった。それらの問題は、高額療養費制度や限度額適用認定証の説明、介護保険など社会保障制度の情報提供で解決できが多かった。そのため

患者・家族が社会保障制度の情報へアクセスしやすいように「いきいきレター・トクトク情報」を適宜改定し、相談時に活用した。さらに、行政機関との合同会議、連絡調整を密に行うことで円滑に地域に繋げた。

また、腎・透析センターの開設準備に伴い、人工透析に関連した社会資源情報や医療費以外に係る費用について新しい情報も追加した。

心理的相談については 29 件と少なかったが、患者・家族の抱える問題が深刻かつ複雑で、長期間の関わりを要し難航する場合も多かった。必要に応じて、他機関へ連絡を取り、専門的支援に繋ぐことで解決した。

3) 地域医療連携共同依頼件数（表 2）

表 2 地域医療連携共同依頼件数

内 容	平成 29 年度	平成 28 年度
核医学検査依頼件数	135	119
放射線機器共同利用件数	35	13
生理検査依頼件数	11	30

地域医療連携共同依頼件数は、他院から放射線検査及び生理検査の依頼を受けており、依頼件数は前年度と比べ 19 件増加した。

2 病棟における退院支援・調整に関する対応件数（入院実数 5,899 名）（表 3）

表 3 退院支援・調整に関する対応件数

内 容	平成 29 年度	平成 28 年度
退院時共同指導カンファレンス実施	66	51
介護支援等連携指導カンファレンス実施	181	136
退院支援介入件数	769	574
内訳) 転院支援	226	232
在宅支援	400	177

院外連携においては、退院支援看護師により、患者が入院前から支援を受けていたケアマネジャーや訪問看護師から積極的に入院前の生活情報を得ることで、早期の連携をとることができた。また入院中に行われてきた医療・看護を、退院後の個々の生活に合わせてどのように継続していくのかを検討するための介護支援等連携指導カンファレンスや、退院時共同指導カンファレンスが増加した。これらのカンファレンスを行うことが、退院後の医療・介護・福祉の切れ目のない在宅療養支援につながった。

3 出張いきいき健康塾（表 4）

1) テーマ：肺炎のはなし ～肺炎球菌ワクチン等～

2) 講師：埼玉県立循環器・呼吸器病センター 副病院長 柳澤勉

表 4 出張いきいき健康塾開催実績表

回数	開催日	時間	会場	参加人数
第 1 回	平成 30 年 1 月 18 日（木）	14 時～15 時	熊谷市 江南第 2 コミュニティーセンター	11
第 2 回	平成 30 年 3 月 15 日（木）	14 時～15 時	深谷市 川本公民館	23

第6節 診療材料等管理業務

備品及び診療材料等を適正に選定又は採用するため、備品・診療材料選定委員会を設置している。

平成 29 年度は 27 回の委員会を開催し、27 件の備品選定を行うとともに、下表のとおり、診療材料及び試薬の採用・削除について審議・検討を行った。

また、平成 25 年度 10 月 1 日からは SPD を開始し、株式会社エフエスユニマネジメントに診療材料・試薬（医薬品に該当するもの等を除く）の購入と供給を委託した。（契約期間平成 30 年 7 月 31 日まで）

【診療材料等の採用件数】

種 類	新 規 採 用	緊急規程適用承認
診療材料	47 件	5 件
試 薬	36 件	3 件

【診療材料等採用・削除品目数】

削 除 品 目 数	159 品目
採 用 品 目 数	686 品目
平成 29 年度末総品目数	9,023 品目

※上記 SPD 業者が品目の見直し作業を実施した。

第7節 図書室の業務

図書室の状況

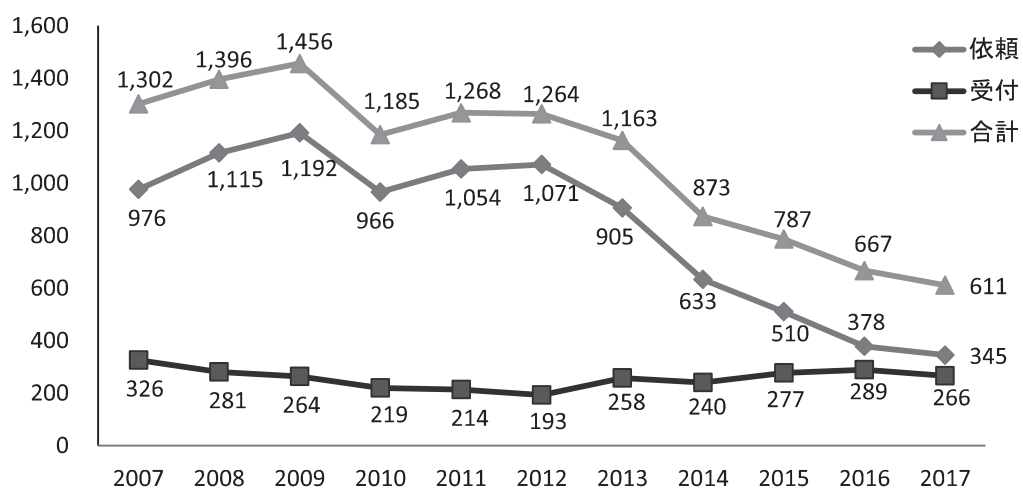
1 蔵書数

資料区分	蔵書数	平成29年度受入数	平成29年度受入雑誌数 (タイトル数)
単行本	9,621冊	268冊	洋雑誌37誌※
ビデオ・DVD	508本	1本	和雑誌84誌

※37誌中23誌は電子ジャーナル

2 文献相互貸借の推移

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
依頼	976	1,115	1,192	966	1,054	1,071	905	633	510	378	345
受付	326	281	264	219	214	193	258	240	277	289	266
合計	1,302	1,396	1,456	1,185	1,268	1,264	1,163	873	787	667	611



第8節 新館等準備担当業務

新館等準備担当では、埼玉県病院局経営管理課と連携し、新館棟建設工事の実施、新館棟竣工に伴う式典等開催、新館棟への移転の実施、既存棟改修工事の実施などを行った。

1 平成29年度の主な実施業務

埼玉県病院局経営管理課が実施する本館棟2階透析室ほか改修工事、A病棟改修工事及び検査棟解体工事に伴う各部門への連絡調整及び院内周知を行い、工事を円滑に進めるための段取りを組んだ。

(1) 放射線部門の改修工事

本館棟1階放射線部門に、受付や更衣室を整備した。

(2) 2階ホスピタルストリートの開通工事

本館棟と新館棟の2階部分をつなぐホスピタルストリートを整備した。

(3) C C Uの改修工事

本館棟2階C C Uにおいて、各病床面積の拡充、洗浄室やトイレなどの水回りを更新した。

(4) 腎・透析センターの整備（6ベッド）

新館棟移転後の旧I C U及び旧手術室の跡地に、腎・透析センター（6ベッド）を整備した。

(5) A病棟の改修工事

4階の空調設備の改修、衛生器具の更新等を行った。また、1階～3階に更衣室や研修室、休憩室等の管理諸室を整備した。

(6) 理容室の整備

治療棟1階に理容室を整備し、検査棟にあった理容室を移転した。

(7) 検査棟の解体工事、駐車場の整備

検査棟を解体し、跡地に駐車場を整備するとともに、新館棟感染症外来へのアクセスルートを確保した。

(8) 既存棟内の移転業務

既存棟内移転業務委託の入札を実施し、受託者となった「日本通運株式会社埼玉支店」と協力して移転作業を実施した。

(ア) C C U改修工事に伴う物品等移転作業

本館棟2階のC C U改修工事完了後、旧C C Uの物品を新C C Uに運搬した。また、患者移送にあたり患者私物等の運搬も行った。

(イ) A病棟改修工事に伴う物品等移転作業

A病棟改修工事实施にあたり、工事エリア内の物品を新館棟倉庫等へ運搬した。また、工事完了後の患者移送にあたり患者私物等の運搬も行った。

(ウ) 治療棟内更衣室・控室等の移転作業

A病棟改修工事完了後、治療棟内更衣室・控室等にある物品をA病棟等に運搬した。

(エ) 病理標本等移転作業

A病棟改修工事完了後、治療棟1階にある病理標本等をA病棟に運搬した。

(オ) 病歴保管庫移転作業

検査棟解体工事实施にあたり、工事着工前に検査棟内にある入院病歴等をA病棟に運搬した。

(カ) 治療棟等利用方針に基づく移転作業

「治療棟等利用検討ワーキングチーム」において策定された利用方針に基づき、肺機能検査室・レセプト点検室の移転を行った。

(キ) 旧小児医療センターからの物品運搬作業

旧小児医療センター内にある未利用物品を循環器・呼吸器病センターに運搬した。

第 2 編

研 究 編

第 1 章 研究施設における研究

1. はじめに

県民の希望する先進医療を実践するために、本センターが循環器、呼吸器疾患に関する日本有数の医療機関になるには、世界的レベルで評価される新しい診断や治療の技術を開発していく必要がある。

本研究施設は、これを目標として以下のような基本方針を掲げ、本センターの活動の一端を担っている。

2. 運営方針

2. 1 基本方針

- ・ つねに世界の最先端を目指し、独創性が高く、波及効果の大きい研究を行う。
- ・ 臨床への応用を目指したテーマを中心に研究活動を行う。
- ・ 医師や技師が創造性を最大限に発揮できるように支援する。

2. 2 運営方針概要

1. 国内外の研究ネットワークを構築し、大学等の他の研究機関と共同研究を積極的に行うことで研究の活性化と迅速化を図る。
2. 実用性の高い研究については、製品化を考慮すると企業との共同研究が必須となるため、これに見合った共同研究システムを構築していく。
3. 理工学系の研究スタッフの参加により、従来の医療スタッフだけでは実行不可能だった研究を実施できる支援体制を作る。

具体的には以下のようなことを行っている。

- ・ 研究テーマの選定に関して助言をする。
 - ・ 研究計画に対して工学的側面から助言する。
 - ・ 市販品にはない特殊な研究機器を試作する。
 - ・ 計測システムに関して助言または構成の支援をする。
 - ・ シミュレーション等により実験結果を理論面から予測する。
 - ・ 実験結果の解析手法に関して技術的な支援をする。
 - ・ 実験結果に対して工学的側面から考察を加える。
 - ・ 工学的側面の強い研究においては単なる支援に止まらず共同で研究を行う。
 - ・ 研究を円滑に進めるために研究ネットワークを利用して、研究内容に見合った外部機関の研究協力者（大学、公立研究機関等の人材）を紹介する。
 - ・ 若手医師や技師に研究活動に関連した一般知識（研究活動のしかた、論文作成発表手順等）の教育と援助を行う。
 - ・ 医師や技師が知っておくべき工学分野の知識を伝達する。
 - ・ 医学に関連した工学分野におけるトピックスを提供する。
4. センターに勤務する医師や技師の研究計画は、原則としてセンター内公募とし、研究委員会にて採否を決定する。
 5. センター外の研究者が当施設を利用して学術的に意義のある研究をしたい場合も、当センター医療職員との共同研究として公募研究の場合と同様に扱う。
 6. 研究のカテゴリーを以下のように分類し、実験研究の目標を明確化する。
 - a) 新奇性・独創性が高い研究（世界初か否かを問う）
 - b) 質的波及効果が高い研究

- c) 量的波及効果が大きい研究
 - d) 従来の方法の理論面からの研究
 - e) 実践的効果がある実験
 - f) 教育的効果がある実験
7. 研究成果の最終評価を厳しく行い、成果獲得のための投資効率を高める。
 8. 研究で得られた成果は、報告書にまとめ、また報告会を開くことで、だれもがアクセスできるよう管理する。
 9. 動物実験はすべて NIH 基準を満足させることを条件とする。

3. 研究概要

平成 29 年度に行われた公募研究を含めた主要研究テーマ及び研究内容の概略を以下に示す。

これらの研究は、まだ研究を開始したばかりで実験系の確立を試みている段階のものもあるが、独創性の高いものや、実用性の高いものが多く、今後の成果が期待される。

研究 1) 持続的硬膜外腔脊髄冷却システム

大動脈瘤手術の深刻な合併症である対麻痺を回避する目的で開発した持続的硬膜外腔脊髄冷却システムは、長年にわたる動物実験で満足いく結果を示すことができた。この成果をもとに世界初の臨床応用を目指して、システムの性能面や安全面でなお一層の向上を図るべく検討を進めた。カテーテルの経皮的挿入を実現し、胸部大動脈瘤手術例に適用して、その安全性、有用性を確認しつつあり、対麻痺の発生回避率はきわめて高い。過去に類型を見ない新技術であり、現在、医師主導の臨床治験から本邦 PMDA（米国の FDA に相当）主導の治験への移行期である。工学的側面から冷却システムのメカニズムをコンピュータにより解析し、冷却効果の裏付けを進めている。最終的に製造承認を得て、臨床に送り出すべく鋭意検討中である。将来は脊髄外傷による四肢麻痺などの治療にも応用できる可能性さえ秘めていると期待している。

研究 2) 患者動作監視システム

三次元加速度センサおよび角速度センサなどのモーションセンサーなどを用いてベッドでの患者の動作をモニターし、無線伝送システムで近くにあるコンピュータにデータを送信する方式の検討を進めている。このシステムにより患者の麻痺の進行状況を実時間で診断したり、譫妄などの異常動作を検出し通報したりすることが可能となり、人手不足による医療体制の不備を補うことができる。現在、得られたデータを小型の無線機で伝送するシステムを試作中である。今後、送られてきたデータをコンピュータで解析統合し、患者動作の内容を即座に判断し、必要に応じて警報を発するシステムの開発も進めていく予定である。

以下に平成 29 年度に行われた公募研究テーマを示す。

1. クオンティフェロン（QFT-gold）の臨床応用
2. 市中肺炎における起因菌の検討
3. 特発性肺線維症と鳥関連慢性過敏性肺炎の鑑別・診断における鳥特異抗体の有用性の検討
4. 急性肺傷害におけるウイルス性肺炎の頻度に関する研究
5. 原発性肺癌における PD-L1 発現の不均一性の研究
6. 血管吻合後の内膜肥厚並びに内膜再生の経時的定量的変化と定量的評価による血管縫合技術との関連性に関する研究
7. 脳神経外科領域における顕微鏡下血管吻合トレーニング効果の定量的評価に関する研究

8. 内頸動脈内膜剥離術（CEA）施行時の術中脳虚血と各種モニタリングの相関に関する検討
9. 胃癌術後 Roux Stasis Syndrome のメカニズムの解明
10. 心臓手術における薬剤投与とストレスの関係
11. 患者における術後心房細動と心機能の関連
12. レミフェンタニル麻酔下開心術時のケタミン少量持続投与は、術後離床を早めるか？
13. 有限要素法を用いた脊髄冷却カテーテルの冷却効果のコンピュータシミュレーション解析およびブタモデルによる実験的検討
14. メタ解析による循環器内科の臨床データの検証

第2章 病院における研究等

1 著 書

循環器内科

武藤 誠 薬剤溶出性ステント（DES : Drug Eluting Stent）留置症例のマネジメント
埼玉県医師会誌 4月号 P.58-65 2017年4月10日発行

永吉 信哉

Intravenous ultrasound-guided balloon pulmonary angioplasty in the treatment of totally occluded chronic thromboembolic pulmonary hypertension
EuroIntervention 2018;14:234-235 published online October 2017.

永吉 信哉

A Refined Coronary Computed Tomography Procedure Reveals an Anomalous Origin of the Left Coronary Artery from the Pulmonary Artery, Including the Collateral Artery
Cardiovasc Imaging Asia. 2018 Jan;2(1):31-33. English.
Published online Jan 31, 2018. <https://doi.org/10.22468/cvia.2017.00164>

カテーテルインターベンション医が考える心不全診療
慈恵埼玉支部だより 武藤 誠 2018年2月14日

心臓外科

Takayuki Abe, Kiyozo Morita, Gen Shinohara, Kazuhiro Hashimoto and Masako Nishikawa.
Synergistic effects of remote preconditioning with terminal blood cardioplegia in an in vivo piglet model. European Journal of Cardio-Thoracic Surgery 52 (2017) 479-484

中村賢 末梢血管疾患診療マニュアル（南江堂） 大動脈瘤1外科治療 246-250
中村賢 オペナースのためのイイトコ取り解剖図 第3章心臓血管外科「手術編」2018年

血管外科

墨 誠，金岡 祐司，大木隆生．頸動脈狭窄．臨床脈管学．日本医学出版 2017. 12. Page294-297.

検査技術部

大久保輝男：肺拡散能の測定
臨床検査 10月増刊号呼吸機能検査 BASIC and PRACTICE(鈴木範考企画). 61巻10号 P1178-1183(2017)

2 論文など

血管外科

〈original〉

Sumi, M. Performance of Aorfix with IntelliFlex LP delivery system in challenging anatomy. Case Report. Vascular News Education Supplement. September 2017.5-6.

手塚雅博, 墨 誠, 花井 信, 山城理仁, 田口真吾, 小野口勝久, 大木隆生. CKD 患者に対する完全 CO₂ 造影による EVAR の 1 例. 血管外科 2017 ; 36 (1) ; 53-8

呼吸器内科

Development of myasthenia gravis 8 years after interstitial lung disease associated with antisynthetase (anti-EJ antibody) syndrome

Ishiguro T, Kagiya N, Kawate E, Odashima K, Takaku Y, Shimizu Y, Kurashima K, Takayanagi N
Clinical Case Reports 2017; 5: 61-65.

How many instructions are required to correct inharation errors in patients with asthma and chronic obstructive pulmonary disease?

Takaku Y, Kurashima K, Ohta T, Ishiguro T, Kagiya N, Yanagisawa T, Takayanagi N
Respiratory Medicine, 2017; 123: 110-115.

Consensus statements for medical practice: Biological agents and lung disease

Tokuda H, Harigai M, Kameda H, Tomono K, Takayanagi N, Watanabe A, Tasaka S, Suda T, Tateda K, Kadota J.

Respiratory Investigation 2017; 55: 229-251.

肺胞性パターンの画像所見を呈した EGFR 遺伝子変異陽性乳癌肺転移の 1 例

川辺梨恵、松島秀和、天野雅子、高柳 昇、清水禎彦、鈴木 滋

肺癌 第 57 巻 2 号 2017 年 4 月、肺癌 2017;57:113-117

パスツレラ呼吸器感染症の臨床的検討

石黒 卓、鍵山奈保、吉岡浩明、西田 隆、奥田慶太郎、倉島一義、高柳 昇

日本呼吸器学会誌 第 6 巻第 3 号 144-149, 2017

Clinical characteristics of influenza-associated pneumonia of adults: clinical features and factors contributing to severity and mortality

Ishiguro T, Kagiya N, Uozumi R, Odashima K, Takaku Y, Kurashima K, Morita S, Takayanagi N
Yale journal of biology and medicine 2017; 90: 165-181

A case of empyema and septic arthritis due to Nocardia farcinica

Ishiguro T, Yoshioka H, Kawai S, Katsumata S, Gono T, Takayanagi N

Clinical Case Reports 2017. doi:10.1002/ccr.1228.

Smoking history and emphysema in asthma–COPD overlap

Kazuyoshi Kurashima, Yotaro Takaku, Chie Ohta, Noboru Takayanagi, Tsutomu Yanagisawa, Tetsu Kanauchi, Osamu Takahashi

International Journal of COPD 2017;12 3523–3532

インフルエンザに関連する肺炎

高柳 昇

日本医事新報 No4886 2017/12/16, p28-39

可逆性脳梁膨大部病変を伴った血清型 2 Legionella pneumophila 肺炎の 1 例

西田 隆、石黒 卓、河手絵里子、太田池恵、鍵山奈保、高柳 昇

日本呼吸器学会誌 第 6 巻第 6 号 417-420, 2017

Incidence and predictive factors of lung cancer in patients with idiopathic pulmonary fibrosis

kato E, Takayanagi N, Takaku Y, Kagiya N, Kanauchi T, Ishiguro T, Sugita Y.

ERJ Open Res 2018 Feb 2;4(1)

Occupational hypersensitivity pneumonitis in a koji brewer

Ishiguro T, Kawai S, Kojima A, Shimizu Y, Kamei K, Takayanagi N

Clin Case Rep 2018 Jan 19;6: 461-464.

Re-evaluation of the etiology and clinical and radiological features of community-acquired lobar pneumonia in adults.

Ishiguro T, Yoshii Y, Kanauchi T, Hoshi T, Takaku Y, Kagiya N, Kurashima K, Takayanagi N

J Infect Chemother 2018 Mar 28

Allergic bronchopulmonary mycosis due to Shizophyllum commune treated effectively with voriconazole: a case report

Ishiguro T, Kagiya N, Kojima A, Yamada M, Nakamoto Y, Takaku Y, Shimizu Y, Kurashima K, Takayanagi N

Inter Med 2018 Mar 30

呼吸器外科

堀内 翔, 星 永進, 池谷朋彦, 高橋伸政, 齋藤雄一, 諸岡宏明.

成熟型縦隔奇形種左胸腔内穿破の 1 切除例.

日呼外会誌 2017; 31(6): 88-92.

Klotho expression is correlated to molecules associated with epithelial-mesenchymal transition in lung squamous cell carcinoma.

Takayuki Ibi, Jitsuo Usuda, Tatsuya Inoue, Akira Sato, Kyoshiro Takegahara.

Oncology Letters 14 (5): 5526-5532, 2017.

Pulmonary wedge resection for clinical stage I non-small cell lung cancer:

Noriyoshi Sawabata, Akikazu Kawase, Nobumasa Takahashi, Takeshi Kawaguchi, Noriyuki Matsutani: a review of a mini-invasive treatment.

Mini-invasive Surgery 1: 1-12, 2017

日本呼吸器外科学会雑誌 31 巻 6 号 Page784-788

成熟型縦隔奇形腫左胸腔内穿破の 1 切除例 (原著論文/症例報告)

堀内 翔 (埼玉県立循環器・呼吸器病センター 呼吸器外科), 星 永進, 池谷 朋彦, 高橋 伸政, 齋藤 雄一, 諸岡 宏明

脳神経外科

Yokosako S, Kikkawa Y, Takeda R, Ikeda T, Kurita H: Oculomotor nerve palsy in a patient with ruptured middle cerebral artery aneurysm. J Med Invest 64: 165-167, 2017

Kikkawa Y, Oigawa H, Ikeda T, Takeda R, Nakajima H, Ogura T, Kurita H: Management and clinical outcomes of aneurysmal subarachnoid hemorrhage treated surgically; a 7-year survey, in Sasaki T, Ohkuma H, Kanamaru K, Suzuki M (eds): Neurovascular Events after Subarachnoid Hemorrhage. Tokyo: NARUNIA Inc, 2017, pp.19-21.

Kikkawa Y, Ikeda T, Takeda R, Nakajima H, Ogura T, Oigawa H, Kurita H: Results of early high-flow bypass and trapping for ruptured blood blister-like aneurysms of the internal carotid artery. World Neurosurg (in press)

Kikkawa Y, Ogura T, Takeda R, Nakajima H, Ikeda T, Neki H, Koyama S, Kurogi R, Nakamizo A, Mizoguchi M, Kurita H: Altered expression of microRNA-15a and Kruppel Factor 4 in cerebrospinal fluid and plasma after aneurysmal subarachnoid hemorrhage. ProNas (submitted)

Oigawa H, Sato H, Suzuki K, Yanagawa T, Ootsuka M, Fushihara G, Kurita H: Aseptic condition of normal frontal sinus: importance of secure shielding after frontal craniotomy. Neurol Med Chir (Tokyo) (submitted)

Yamaguchi Y, Takeda R, Kikkawa Y, Ikeda T, Suzuki K, Shibata A, Tiezzi G, Araki R, Kurita H: Multiple simultaneous intracerebral hemorrhages: clinical presentations and risk factors. Clin Neurol Neurosurg (submitted)

佐藤大樹、吉川雄一郎、武裕士郎、大熊理弘、中島弘之、竹田理々子、柳川太郎、鈴木海馬、池田俊貴、栗田浩樹：当施設における破裂脳動脈瘤に対する脳血管攣縮期を含む非急性期の開頭手術の成績。脳血管攣縮 32: 31-35, 2017

吉川雄一郎、武裕士郎、大熊理弘、伊藤清佳、中島弘之、竹田理々子、佐藤大樹、柳川太郎、鈴木海馬、池田俊貴、栗田浩樹：当施設におけるくも膜下出血開頭手術患者の術後経過における年齢因子の関与。脳

血管攣縮 32: 10-14, 2017

吉川雄一郎、池田俊貴、竹田理々子、中島弘之、大井川秀聡、栗田浩樹：破裂血豆状内頸動脈瘤に対する急性期 high-flow bypass 併用動脈瘤 trapping 術の治療成績. 脳卒中の外科 45: 171-176, 2017

池田俊貴、吉川雄一郎、栗田浩樹：橈骨動脈を用いた High-flow bypass 術の方法と注意点. 脳神経外科速報(in press)

池田俊貴、栗田浩樹：II. 外来の基本的な流れー外科治療の適応. 神経内科外来シリーズ・神経内科外来シリーズ5・脳卒中外来. 荒木信夫、棚橋紀夫(編), メジカルビュー社, 東京, 2017, pp.74-8

病理診断科

Terasaki Y, Ikushima S, Matsui S, Hebisawa A, Ichimura Y, Izumi S, Ujita M, Arita M, Tomii K, Komase Y, Owan I, Kawamura T, Matsuzawa Y, Murakami M, Ishimoto H, Kimura H, Bando M, Nishimoto N, Kawabata Y, Fukuda Y, Ogura T. Comparison of clinical and pathological features of lung lesions of systemic IgG4-related disease and idiopathic multicentric Castleman's disease. Histopathology. 2017; 70: 1114-1124. (原著)

Watanabe Y, Kawabata Y, Koyama N, Ikeya T, Hoshi E, Takayanagi N, Koyama S. A clinicopathological study of surgically resected lung cancer in patients with usual interstitial pneumonia. Respiratory Medicine. 2017; 129: 158-163. (原著)

Kawabata Y. Pathology of tuberculosis. Kekkaku. 2017; 92: 647-660. (総説)

Watanabe Y, Kawabata Y, Iwai Y, Kudo F, Kawamura R, Miwa C, Nagai Y, Koyama S. Early-stage diffuse panbronchiolitis in a young patient confirmed by video-assisted lung biopsy: A case report. J Gen Fam Med. 2017; 18: 411-413. (症例報告)

Kawaguchi T, Oda K, Kido T, Kawanami T, Kawabata Y, Yatera K. Bilateral tuberculous pleurisy with subsequent upper lobe predominant pulmonary fibrosis mimicking pleuroparenchymal fibroelastosis. Internal Med. 2018; 57: 85-89. (症例報告)

川辺梨恵, 松島秀和, 天野雅子, 高柳 昇, 清水禎彦, 鈴木 滋. 肺胞性パターンの画像所見を呈した EGFR 遺伝子陽性乳癌肺転移の 1 例. 肺癌. 57: 113-117: 2017. (症例報告)

他, 他科との共同発表

臨床工学部

clinically amyopathic dermatomyositis に対してエンドトキシン吸着療法及び二重膜濾過血漿交換療法を行った一例

黒岩清一郎、清水泰輔、清水禎彦、石黒卓、小暮俊一、加藤和也、植木弘一、西田慎一、中嶋康仁、武藤誠、染谷忠男

埼玉透析医学会会誌 6 (1) :81-85, 2017

3 学会・研究発表

循環器内科

深谷寄居循環器スモールミーティング

2017/8/23 Hotel City Plaza 寄居

心疾患における心筋症の位置づけ

～肥大型心筋症の最新治療、心房細動合併例も含めて～

宮本 敬史、利根川 玲奈、樺 敬人、福島 啓介、河邊 篤彦

宇野 剛輝、永吉 信哉、藤井 真也、村上 彰通、鈴木 輝彦

河合 雄一郎、清水 泰輔、藤原 堅祐、中島 崇智、武藤 誠

地域医療連携講演会 秩父郡市医師会

2017/9/13 秩父農園ホテル

利尿薬の使い方～新しい利尿薬に期待するもの～

宮本 敬史、利根川 玲奈、樺 敬人、福島 啓介、河邊 篤彦

宇野 剛輝、永吉 信哉、藤井 真也、村上 彰通、鈴木 輝彦

河合 雄一郎、清水 泰輔、藤原 堅祐、中島 崇智、武藤 誠

地域医療連携講演会 比企医師会

2017/11/8 東松山市 紫雲閣

循環器内科領域における β ブロッカーの使用法～肥大型心筋症の最新治療～

宮本 敬史、利根川 玲奈、樺 敬人、福島 啓介、河邊 篤彦

宇野 剛輝、永吉 信哉、藤井 真也、村上 彰通、鈴木 輝彦

河合 雄一郎、清水 泰輔、藤原 堅祐、中島 崇智、武藤 誠

Reina Tonegawa, Takatomo Nakajima, Ryosuke Aoki, Christian Michael Pawhay, Keisuke Fukushima, Takahito Kamba, Atsuhiko Kawabe, Goki Uno, Shinya Fujii, Shinya Nagayoshi, Akimichi Murakami, Teruhiko Suzuki, Kensuke Fujiwara, Fumiko Kimura, Takashi Miyamoto, Makoto Mutoh, Role of T2-weighted Short Tau Inversion Recovery Image of Cardiac Magnetic Resonance and Positron Emission Tomography using ^{18}F Fluorine-fluorodeoxyglucose in the Evaluation of Disease Activity of Cardiac Involvement of Sarcoidosis. 103rd Annual meeting of Radiology Society of North America, Chicago, USA, 2017/11/26-12/1, Education exhibit (Digital poster presentation)

Reina Tonegawa, Takatomo Nakajima, Ryosuke Aoki, Christian Michael Pawhay, Keisuke Fukushima, Takahito Kamba, Atsuhiko Kawabe, Goki Uno, Shinya Fujii, Shinya Nagayoshi, Akimichi Murakami, Teruhiko Suzuki, Kensuke Fujiwara, Fumiko Kimura, Takashi Miyamoto, Makoto Mutoh, T2-weighted Short Tau Inversion Recovery Black-Blood Image of Cardiac Magnetic Resonance Reflects Disease Activity of Cardiac Involvement of Sarcoidosis: Comparison with Conventional Method. 103rd Annual meeting of Radiology Society of North America, Chicago, USA, 2017/11/28, (Oral presentation)

腎臓内科

Hatano M, Takayanagi K, Hara H, Terao M, Sato S, Iwashita T, Shimizu T, Ogawa T, Kanozawa K,

Hasegawa H. Clinical advantage of renal arterial doppler ultrasonography for the assessment of tubulo-interstitial nephropathy. American Society of Nephrology Kidney Week 2017. Nov 2, 2017, New Orleans, USA.

清水 泰輔(埼玉県立循環器・呼吸器病センター 循環器内科), 河合 雄一郎, 武藤 誠, 長谷川 元
教育講演 腎不全における尿細管間質の変化と水・Na 代謝について. 第 62 回 日本透析医学会学術総会
2017 年 6 月 16 日 神奈川県横浜市

黒岩 清一郎, 清水 泰輔, 小暮 俊一, 加藤 和也, 植木 弘一, 西田 伸一, 中嶋 康人, 染谷 忠男, 武藤 誠
clinically amyopathic DM に対して PMX・DHP 及び DFPP を行った一例 第 62 回 日本透析医学会
学術総会 2017 年 6 月 18 日 神奈川県横浜市

羽田野実、高柳佳織、中村裕美子、山本亮、佐野達郎、小暮裕太、清水泰輔、小川智也、叶澤孝一、
長谷川元. 腎血管超音波による腎血管血流と尿細管間質障害との相関に関する検討. 第 60 回日本腎
臓学会学術総会. 2017 年 5 月 26 日、宮城県仙台市

原宏明、高柳佳織、河合雄一郎、塩田裕也、岡崎晋平、三谷知之、清水泰輔、小川智也、叶澤孝一、長谷
川元. フルクトース過剰摂取に伴う血圧上昇とエネルギー代謝障害との関連に関する基礎的検討. 第 60 回
日本腎臓学会学術総会. 2017 年 5 月 26 日、宮城県仙台市

下郷優、佐野達郎、廣瀬賢人、安田邦彦、原宏明、木場藤太、清水泰輔、小川智也、叶澤孝一、長谷川元、
櫻井淑夫. 小児 HUS に対して急性血液浄化療法を行った 3 症例. 第 47 回日本腎臓学会東部学術大会. 2017
年 10 月 28 日、神奈川県横浜市

寺尾政昭、羽田野実、岡崎晋平、安田邦彦、佐野達郎、小暮裕太、清水泰輔、小川智也、叶澤孝一、
城謙輔、長谷川元. Meigs 症候群治療中にネフローゼ症候群が合併した MPGN の一例. 第 47 回日本腎
臓学会東部学術大会. 2017 年 10 月 29 日、神奈川県横浜市

心臓外科

第 26 回末梢血管画像・血管内治療研究会 . 東京. 2017 年 10 月

花井 信、墨 誠、手塚雅弘.

AAA に対し EXCLUDER を留置するも migration し ENDURANT Aortic Extension で rescue した一例

血管外科

第 45 回日本血管外科学会. 広島. 2017 年 4 月.

手塚雅博, 墨 誠, 山城理仁, 花井 信, 田口真吾, 小野口勝久, 大木隆生. Type2 エンドリーク予防の
ための Aortic cuff ファーストテクニック. (口演)

第 172 回血管外科症例検討会. 東京. 2017 年 5 月.

手塚雅博, 墨 誠, 山城理仁, 花井 信, 田口真吾, 小野口勝久, 大木隆生. 感染性腹部大動脈瘤切迫破

裂に対して二度の緊急手術を行い救命し得た 1 例。（口演）

第 2 回北関東ステントグラフトクラブ．東京．2017 年 7 月．

手塚雅博，墨 誠，百川文健，山城理仁，花井 信，田口真吾，小野口勝久．高度屈曲ネック症例に対する緊急 EVAR 時にメインボディが瘤内に落ちてしまった 1 例．（口演）

第 58 回日本脈管学会総会．名古屋．2017 年 10 月．

百川文健，墨 誠，手塚雅博，大木隆生．腸骨動脈瘤閉塞・大腿膝窩動脈閉塞による下肢虚血に対してハイブリッド distal bypass を施行した一例（口演）

第 25 回日本血管外科学会関東甲信越地方会．東京．2017 年 10 月．

百川文健、墨 誠、手塚雅博、花井 信、中村 賢、山城理仁田口真吾、小野口勝久、大木隆生．A 型大動脈解離に対してステントグラフト術で治療した 2 例（口演）

放射線科

叶内 哲，上田みゆき，高田直美，松本寛子：肺分画症に類似した右肺底区動脈大動脈起始症の一例．第 24 回埼玉画像フォーラム，2018. 09，さいたま

呼吸器内科

COPD と ACOS の気腫型、気道病変型における予後と増悪の違い

倉島一喜,高久洋太郎, 奥田慶太郎, 石黒 卓, 佐久間 翔, 西田 隆, 中元康雄, 川合祥子, 小田島丘人, 河手絵理子, 太田池恵, 鍵山奈保, 高柳 昇, 柳沢 勉,

第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 29 年 4 月 22 日、東京

間接リウマチ(RA)に対する生物学的製剤使用前スクリーニング症例の肺合併症

小田島丘人,高柳 昇, 佐久間 翔, 奥田慶太郎,西田 隆, 中元康雄, 河手絵理子, 太田池恵, 石黒 卓, 鍵山奈保, 高久洋太郎, 倉島一喜, 柳沢 勉,

第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 29 年 4 月 22 日、東京

過敏性肺炎 130 例の原因抗原と治療成績

西田 隆, 河手絵理子, 佐久間 翔, 奥田慶太郎,中元康雄, 小田島丘人、太田池恵, 石黒 卓, 鍵山奈保, 高久洋太郎, 倉島一喜, 柳沢 勉,,高柳 昇

第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 29 年 4 月 22 日、東京

間質性肺炎と鑑別を要したインフルエンザ肺炎の診断・治療の問題点

奥田慶太郎, 高柳 昇, 石黒 卓, 佐久間 翔, 西田 隆, 中元康雄, 川合祥子, 小田島丘人, 河手絵理子, 太田池恵, 鍵山奈保, 高久洋太郎, 倉島一喜, 柳沢 勉, 河端美則, 清水禎彦

第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 29 年 4 月 22 日、東京

オウム病 25 例の臨床像についての検討

中元康雄, 高柳 昇, 佐久間 翔, 奥田慶太郎, 西田 隆, 川合祥子, 小田島丘人, 河手絵理子, 太田池恵, 石黒 卓, 鍵山奈保, 高久洋太郎, 倉島一喜, 柳沢 勉,
第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 29 年 4 月 22 日、東京

気管支喘息/COPD 患者の吸入手技習得に必要な指導の検討

高久洋太郎, 倉島一喜, 奥田慶太郎, 石黒 卓, 佐久間 翔, 西田 隆, 中元康雄, 川合祥子, 小田島丘人, 河手絵理子, 太田池恵, 鍵山奈保, 柳沢 勉, 高柳 昇,
第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 29 年 4 月 22 日、東京

間質性肺炎合併 CADM(Clinically amyopathic dermatomyositis)における筋炎特異抗体と治療反応性、予後の関連性についての検討

佐久間 翔, 高柳 昇, 太田池恵, 石黒 卓, 鍵山奈保, 高久洋太郎, 倉島一喜, 柳沢 勉, 叶内 哲、河端美則, 清水禎彦
第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 平成 29 年 4 月 22 日、東京

気管限局 MALT リンパ腫の 1 例

小田島丘人, 高柳 昇, 佐久間 翔, 奥田慶太郎, 西田 隆, 中元康雄, 河手絵理子, 太田池恵, 石黒 卓, 高久洋太郎, 鍵山奈保, 倉島一喜, 清水禎彦, 柳澤 勉
第 224 回日本呼吸器学会関東地方会、平成 29 年 5 月 20 日、東京

気管支鏡検査が診断の一助となったシェーグレン症候群, MALT リンパ腫に伴う light chain deposition disease (LCDD) の 1 例

山田真紗美, 小田島丘人, 吉田悠貴, 小島彩子, 西田 隆, 中元康雄, 河手絵理子, 太田池恵, 石黒 卓, 高久洋太郎, 鍵山奈保, 倉島一喜, 柳澤 勉, 清水禎彦, 高柳 昇
第 225 回日本呼吸器学会関東地方会、平成 29 年 7 月 16 日、筑波

ニューマトセル様陰影を伴った A 型インフルエンザウイルス・細菌混合性肺炎の 1 例

小島彩子, 石黒 卓, 吉田悠貴, 山田真紗美, 西田 隆, 中元康雄, 河手絵理子, 太田池恵, 小田島丘人, 高久洋太郎, 鍵山奈保, 倉島一喜, 柳澤 勉, 高柳 昇
第 226 回日本呼吸器学会関東地方会、平成 29 年 11 月 4 日、東京

高度横紋筋融解症を合併したレジオネラ肺炎の 1 例

小島彩子, 石黒 卓, 吉田悠貴, 山田真紗美, 西田 隆, 中元康雄, 河手絵理子, 太田池恵, 小田島丘人, 高久洋太郎, 鍵山奈保, 倉島一喜, 柳澤 勉, 高柳 昇
第 228 回日本呼吸器学会関東地方会、平成 30 年 2 月 17 日、東京

気管支肺胞洗浄液を用いた PCR で診断した 原発性インフルエンザウイルス肺炎の 1 例

中元 康雄, 石黒 卓, 吉田 悠貴, 小島 彩子, 山田 真紗美, 西田 隆, 河手 絵里子, 太田 池恵, 小田島 丘人, 高久 洋太郎, 鍵山 奈保, 倉島 一喜, 高柳 昇
第 164 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会、平成 30 年 3 月 24 日、東京

気管支肺胞洗浄液の PCR で診断した ライノウイルス肺炎の 1 例

吉田 悠貴, 高久 洋太郎, 小島 彩子, 山田 真紗美, 西田 隆, 河手 絵里子, 中元 康雄, 太田 池恵, 小田島 丘人, 石黒 卓, 鍵山 奈保, 倉島 一喜, 柳沢 勉, 高柳 昇

第 164 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会、平成 30 年 3 月 24 日、東京

呼吸器外科

突然の胸背部痛で発見された穿孔性縦隔原発胚細胞腫瘍の 1 手術例

諸岡宏明 堀内 翔 揖斐孝之 齋藤雄一 高橋伸政 池谷朋彦 清水禎彦 星 永進
三地区合同肺癌・呼吸器疾患研究会 2017. 4. 22 鶴岡市

肺癌術後気管支瘻 12 例の臨床的検討

諸岡宏明 堀内 翔 揖斐孝之 齋藤雄一 高橋伸政 池谷朋彦 清水禎彦 星 永進
第 34 回日本呼吸器外科学会総会 2017. 5. 18 福岡国際会議場

当施設における高齢者気胸手術例 13 例の臨床的検討

諸岡宏明 堀内 翔 揖斐孝之 齋藤雄一 高橋伸政 池谷朋彦 星 永進
第 21 回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会 2017. 9. 8 久留米市

突然の胸背部痛で発見された穿孔性縦隔原発胚細胞腫瘍の 1 手術例

諸岡宏明 堀内 翔 揖斐孝之 齋藤雄一 高橋伸政 池谷朋彦 清水禎彦 星 永進
日本大学医学会例会 2018. 1. 27 日本大学医学部

cI 期肺癌における至適縮小手術について

-断端距離/腫瘍径比, 断端細胞診の意義(KLSG0801 副次解析)-高橋伸政、澤端章好、松谷哲行、上原浩文、川村雅文、大塚 崇、堀尾裕俊、坂口浩三、金子公一、中山光男、吉谷克雄、前田寿美子、千田雅之、坂本 圭、村杉雅秀、星 永進：
第 35 回 日本呼吸器外科学会総会、5 月 千葉

当科における自然血気胸 44 例の検討

高橋伸政、堀内 翔、揖斐孝之、諸岡宏明、齋藤雄一、池谷朋彦、浅沼晃三、
星 永進：
第 70 回日本胸部外科学会総会、9 月 北海道

咯血に対する外科治療について.

齋藤雄一, 堀内 翔, 揖斐孝之, 諸岡宏明, 高橋伸政, 池谷朋彦, 星 永進
第35回埼玉県外科集談会. November 18, 2017, 埼玉.

右中下葉切除後に気管支断端瘻を発症した 1 手術例

揖斐孝之、臼田実男、井上達哉、佐藤 明
第 30 回文京区呼吸器外科研究会 2017 年 2 月 東京

肺扁平上皮癌における Klotho 遺伝子による上皮間葉置換の制御

揖斐孝之、臼田実男、井上達哉、佐藤 明
第 117 回日本外科学会定期学術集会 2017 年 4 月 横浜

左肺下葉に認められた滑膜肉腫の一切除例

揖斐孝之、堀内 翔、諸岡宏明、齋藤雄一、高橋伸政、池谷朋彦、星 永進、清水禎彦
第 180 回日本肺癌学会関東支部学術集会 2017 年 11 月 東京

消化器外科

一般口演 豊増 嘉高、神山 陽一、緒方 杏一、桑野 博行：幽門側胃切除術後患者における生理学的及び栄養学的評価—Billroth-I 法再建と Roux-en Y 法再建の比較— 第 46 回胃外科・術後障害研究会 平成 28 年 10 月 27 日 米子

一般口演 豊増嘉高、鈴木雅貴、矢野間透、木暮憲道、木村明春、矢内充洋、緒方杏一、持木彫人、桑野博行：上部胃癌に対する腹腔鏡補助下噴門側胃切除術、胃管再建の長期成績—消化管運動機能評価に着目して— 第 29 回日本内視鏡外科学会 平成 28 年 12 月 8 日 横浜

脳神経外科

栗田浩樹、吉川雄一郎、竹田理々子、大井川秀聡、池田俊貴、小倉丈司：「シンポジウム」 血管内治療時代の脳・脊髄・硬膜 AVM(F) 直達術：現状と将来展望. 第 26 回脳神経外科手術と機器学会 (17/4/14-15 甲府)

栗田浩樹、吉川雄一郎、竹田理々子、大井川秀聡、池田俊貴、小倉丈司：「シンポジウム」 血管内治療時代の脳・脊髄・硬膜 AVM(F) 直達術：現状と将来展望. 第 26 回脳神経外科手術と機器学会 (17/4/14-15 甲府)

栗田浩樹、吉川雄一郎、竹田理々子、中島弘之、鈴木海馬、大塚宗廣、Giacomo Tiezzi、浦丸浩一、武裕士郎、池田俊貴、小倉丈司、神山信也、大井川秀聡：「シンポジウム」 無症候性 AVM に対する的確な治療とは？—ARUBA aftermath 時代を考える. 第 4 回日本心血管脳卒中学会学術集会 (17/6/2-3 福岡)

栗田 浩樹, 吉川 雄一郎, 竹田 理々子, 池田 俊貴, 鈴木 海馬, 柴田 碧人, 神山 信也, 小倉 丈司, 山根 文孝, 大井川 秀聡： Current results of microsurgery for unreptured AVMs in ARUBA Tips, bases, and pitfalls in multimodal treatment era. 第 76 回日本脳神経外科学会学術集会 (17/10/12-14 愛知)

伏原豪司、池田俊貴、大井川秀聡、栗田浩樹：当院における手術手技向上に向けた試み：on the job training と off the job training の積み重ね. 第 76 回日本脳神経外科学会学術集会 (17/10/12-14 愛知)

栢原智道、高井敬介、本郷博貴、谷口真：慢性硬膜下血腫を合併した脳脊髄液漏出症の診断方法と治療戦略. 第 76 回日本脳神経外科学会学術集会 (17/10/12-14 愛知)

池田俊貴、伏原豪司、栗田浩樹：ラットにおける微小血管吻合後の内膜肥厚と血管縫合技術との関連性. 第 47 回日本脳卒中の外科学会学術集会 (18/3/15-18 福岡)

獲得研究費

池田俊貴：研究課題番号 17EV 「脳神経外科領域における顕微鏡下血管吻合トレーニング効果の定量的評価に関する研究」

池田俊貴：研究課題番号 17EU 「血管吻合後の内膜肥厚ならびに内膜再生の経時的定量的変化と定量的評価による血管縫合技術との関連性に関する研究」

伏原豪司：研究課題番号 17ER 「内頸動脈内膜剥離術（CEA）施行時の術中脳虚血と各種モニタリングの相関に関する研究」

リハビリテーション科及びリハビリテーション部

洲川明久 肺切除後に脳梗塞を発症した2症例

2017.6.8~11 第54回日本リハビリ医学会学術集会 岡山

麻酔科

臼田岩男：日本麻酔科学会第64回学術集会 日時：2017年6月8日(木)演題：長時間レミフェンタニル麻酔では、術後シバリング発生率が増加する（フェンタニル麻酔との比較）：後方視的研究

病理診断科

沼上秀博, 舟橋光政, 石黒 卓, 清水禎彦. 地域推薦演題2. 呼吸器 肺動脈吸引細胞診の有用性. 第58回日本臨床細胞学会総会（春期大会）. 2017年5月26-28日, 大阪.

大塚重則, 須藤結花, 林田ひろみ, 白水健士, 堀 慎一, 清水 謙, 鈴木雅子, 清水禎彦. ワークショップ8. ASC 判定と追跡結果子宮頸部細胞診ベセスダシステムにおける ASC-US の有用性と反省点ー基調講演ー. 第58回日本臨床細胞学会総会（春期大会）. 2017年5月26-28日, 大阪.

南 優子, 清水禎彦. Microscopy 解説. 埼玉 PD-L1 検査セミナー. 2018年3月1日, さいたま.

他, 他科との共同発表

放射線技術部

山口彩香, 大澤伸, 山本亮, 清水泰輔, 武藤誠：カテ前エコー検査でわかる腎機能評価について, むさしの国心腎連携フォーラム, 2018/2, 埼玉

検査技術部

沼上秀博、舟橋光政、石黒卓、清水禎彦

肺動脈血吸引細胞診の有用性

第 48 回日本臨床細胞学会総会春季大会

松嶋一成、増田恵美、白岩真一、石井茂雄、小池真由美、鈴木みどり

B D グルカン検体採血後の安定性と高値症例の臨床経過

第 54 回日臨技関東甲信支部・首都圏支部医学検査学会

臨床工学部

カテ室における教育

加藤和也

第 31 回 MCCM 2017 年 5 月 13 日

冠動脈穿孔についての検討

加藤和也、中嶋康仁、西田慎一、植木弘一、庄司梨絵、黒岩清一郎、小暮俊一、藤井拓也、中島あゆみ、大石航平、染谷忠男

第 28 回埼玉県臨床工学会 2017 年 6 月 4 日

clinically amyopathic DM に対して PMX-DHP 及び DFPP を行った一例

黒岩清一郎、清水泰輔、小暮俊一、加藤和也、植木弘一、西田慎一、中嶋康仁、武藤誠、染谷忠男

第 62 回日本透析医学会学術集会 2017 年 6 月 18 日

術中・術後に起きた合併症 ～造影剤アレルギー～

加藤和也、中嶋康仁、西田慎一、植木弘一、庄司梨絵、黒岩清一郎、小暮俊一、藤井拓也、中島あゆみ、大石航平、染谷忠男、武藤誠、叶内哲

第 26 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 2017 年 7 月 6 日

急変・合併症で難渋した症例から学ぼう！

加藤和也

第 32 回 MCCM 2017 年 9 月 16 日

アンチトロンビン製剤投与の早期予測に対する検討

黒岩清一郎、西田慎一、中島あゆみ、藤井拓也、小暮俊一、加藤和也、庄司梨絵、植木弘一、中嶋康仁、染谷忠男

第 43 回日本体外循環技術医学会大会 2017 年 10 月 9 日

体外循環による AKI リスク因子の検討

黒岩清一郎、大石航平、中島あゆみ、藤井拓也、小暮俊一、加藤和也、庄司梨絵、植木弘一、西田慎一、中嶋康仁、染谷忠男

第 8 回関東臨床工学会 2017 年 11 月 5 日

当院における新人教育への取り組みについて

小暮俊一、大石航平、中島あゆみ、藤井拓也、加藤和也、黒岩清一郎、庄司梨絵、植木弘一、西田慎一、
中嶋康仁、染谷忠男

第8回関東臨床工学会 2017年11月5日

IVUSのいろは

加藤和也

第5回埼玉心血管コメディカル研究会 実臨床セミナー 2018年2月3日

薬剤部

第47回 日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会 2017年8月26日 於：ベイシア文化ホール

柳田 絢子

「埼玉吸入指導マイスター制度の導入について」

第4回埼玉呼吸ケア講習会 2018年3月18日 於：埼玉グランドホテル深谷

山田 惣一郎

「3.5段階の強オピオイド（メサドン）の紹介と当院での使用経験について」

看護部

戸口政彦，須田裕佳，坂本詩織，東 由一，塚田美和：呼吸器内科病棟に勤務する経験の浅い看護師のターミナルケアに対する思い ～インタビューを通じての実態～

2017.12.6. 第34回 埼玉県看護協会第1支部 看護研究発表会（埼玉県）

藤井基宏，小久保芽衣，萩原明子：身体抑制解除に対する看護師のアセスメント

2017.10.13 第44回 日本脳神経看護研究学会（愛知県）

天田笑加，齋藤菜摘，市川朋美，金井和美：心筋梗塞患者への早期退院指導開始の有効性

2017.9.9 第14回 日本循環器看護学会学術集会（徳島県）

笠井美穂：カテコラミン離脱困難な心不全患者の在宅療養に向けた取り組み

2018,3,24 第82回 日本循環器学会学術集会（大阪府）

栄養部

ADL低下を伴う心臓血管患者に対する栄養評価と亜鉛測定の意義

池田 翔子、伊丹 正好、関根 清美、墨 誠、花井 信、柳澤 勉

2018年1月14日（日）第21回日本病態栄養学会年次学術集会

4 講演

循環器内科

【講演、セミナー、シンポジウム（演者、パネル）】

藤井 真也 新しい CTEPH を考える会

Type D(total obstruction)病変を含む CTEPH 患者への BPA を考える

2017 年 5 月 13 日 大手町サンケイプラザ 3 階 312 ホール

武藤 誠 第 7 回 豊橋ライブデモンストレーションコース commentator

慢性完全閉塞病変コース 共同企画ライブ

2017 年 5 月 25-27 ロワジールホテル豊橋

武藤 誠 ADATARA LIVE DEMONSTRATION 2017

CTO Education Live commentator 2017 年 6 月 7-9 日 ビッグパレットふくしま

武藤 誠 平成 29 年度 慈恵医大同窓会埼玉支部学術講演会

カテーテルインターベンション医が考える心不全診療

2017 年 6 月 10 日 浦和ロイヤルパインズホテル

武藤 誠 スモールミーティング

カテーテルインターベンション医が考える心不全治療 ～新規利尿薬が必要な患者像～

2017 年 6 月 14 日 ホテルシティプラザ寄居

武藤 誠 比企循環器連携講演会

カテーテルインターベンション医が考える心不全診療

2017 年 6 月 20 日 紫雲閣

宮本敬史 院内講演会 TAVI とは如何なるものか？

2017 年 6 月 26 日 当院 5 F 講堂

中島 崇智 第 51 回心臓核医学談話会 当番世話人

心臓サルコイドーシス

2017 年 7 月 1 日 ベルサール九段

藤井 真也 第 51 回心臓核医学談話会

BPA 時代における CTEPH 患者の肺換気・血流シンチの役割

2017 年 7 月 1 日 ベルサール九段

武藤 誠 TOPIC 2017

ステッドワイヤーのテクニック

DTB time 短縮・各施設での特徴・治療戦略

2017 年 7 月 20-22 日 Cerulean Tower 東急ホテル

藤井 真也 TOPIC2017 Structure Heart Disease BPA Video Live コメンテーター

2017 年 7 月 21 日 渋谷セルリアンタワー

永吉 信哉 第 245 回 日本循環器学会関東甲信越地方会

慢性肺血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) へのバルーン肺動脈拡張術 (BPA) 後, 血栓性閉塞再発の 1 例 2017 年 9 月 9 日 ステーションコンファレンス東京

宮本 敬史 秩父郡市医師会, 埼玉県立循環器・呼吸器病センター病診連携会
利尿薬の使い方 ～新しい利尿薬に期待するもの～

2017 年 9 月 13 日 ナチュラルファームシティ農園ホテル

武藤 誠

CCT2017 Coronary commentator

Dr.Yoshimachi's view for slender PCI 2017

Themed Live Case Transmission 5

2017 年 10 月 26・28 神戸ポートピアホテル

武藤 誠 KCT Live Demonstration 2017

2017 年 11 月 4 日 TKP 大宮ビジネスセンター

宮本 敬史 第 12 回 比企医師会病診連携会

循環器内科領域における β ブロッカーの使用法と肥大型心筋症の最新治療

2017 年 11 月 8 日 ホテル紫雲閣

武藤 誠 第 13 回 深和研究会

カテーテルインターベンション医が考える心不全診療

2017 年 11 月 20 日 埼玉グランドホテル深谷

宮本 敬史 薬剤部 勉強会 心筋症のお話

～肥大型心筋症の最新治療、心房細動合併例も含めて～

2017 年 11 月 30 日 当院 薬剤部

河邊 篤彦 第 246 回 日本循環器学会関東甲信越地方会

当院でのたこつぼ型心筋症を見直す

2017 年 12 月 2 日 ステーションコンファレンス東京

武藤 誠 熊谷薬剤師会学術講演会

カテーテルインターベンション医が考える心不全診療

2017 年 12 月 12 日 ホテルガーデンパレス

河邊 篤彦 第 28 回日本心血管画像動態学会

当院でのたこつぼ型心筋症を見直す 安静時 2 核種心筋シンチと心臓 MRI 所見を加えて

2018 年 1 月 12～13 日 東京コンベンションホール

武藤 誠 第 72 回 埼玉 Interventional Cardiology 研究会